

レジメンcode:	C16-35
適応がん種:	胃癌
レジメン名:	Zolbetuximab+mFOLFOX6-IF
間隔:	2週間

備考
----

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ (初回)	800	mg/m <sup>2</sup>	点滴[*1]	d1
	(2回目以降)	400	mg/m <sup>2</sup>		
L-OHP	オキサリプラチン(エルプラット)	85	mg/m <sup>2</sup>	点滴(2時間)	d1[*2]
l-LV	レボホリナート	200	mg/m <sup>2</sup>	点滴(2時間)[*3]	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	400	mg/m <sup>2</sup>	点滴(全開)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	2400	mg/m <sup>2</sup>	点滴(46時間)	d1

\*初回投与は必ず入院で実施すること

[\*2]臨床試験では、オキサリプラチンの投与は 最大12回まで とされ、その後 C16-37: Zolbetuximab+sLV5-FU2-IF を疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

\*オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)となるため、あらかじめ処方が必要です

\*入院化療時、悪心嘔吐出現時の メクロプラミド注 1A の医師指示が必要です

## 【初回投与】

### 【内服】

day0~4(5日間)

1) オランザピン	5 mg/日
内服	夕食後
	ビロイ投与前日から服用

\* 糖尿病禁忌

day2~4

1) デカドロン	8 mg/日
内服	朝食後

### 【注射】

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	20ml	1 A	
			ポート確認
2) アロカリス	235mg	1 V	
ガスター	20mg	1 A	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
パロノセトロン	0.75mg	1 V	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	30分

次ページあり

3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15 分
4) 生食	100ml	1 本	
	▶側管①	点滴	ピロイを中断した場合のルートキープ用
5) ピロイ		800 mg/m <sup>2</sup>	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml	1 本	6時間以内に投与終了すること
生食	500ml	1 本	6時間を超えた場合は残液破棄
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照
6) 生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
7) オキサリプラチン(エルプラット)[*2]		85 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間
8) レボホリナート		200 mg/m <sup>2</sup>	
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	▶側管②	点滴	2時間 主管⑤と同時に[*3]
9) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m <sup>2</sup>	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開
10) 生食	50ml	1 本	
	主管⑦		フラッシュ
11) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m <sup>2</sup>	
生食	100ml	総液量140ml	になるように調製
	主管⑧	点滴	46時間 (インフューザー)

〈所要時間 ー〉

day3

1) 生食 10 ml

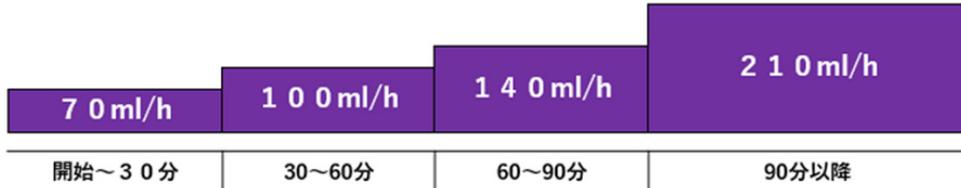
ルートロック

〈所要時間 ー〉

[\*1]

## 初回 悪心・嘔吐に対する投与速度のマネージメント

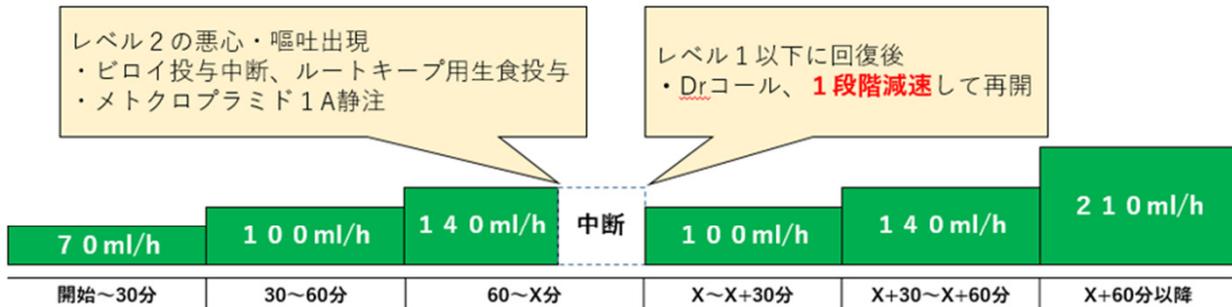
悪心・嘔吐 レベル1以下



\* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

次ページあり

**【2回目以降】**

**【内服】**

day0～4(5日間)

---

1) オランザピン			5 mg/日
	内服	夕食後	<b>ビロイ投与前日から服用</b>

---

\* 糖尿病禁忌

day2～4

---

1) デカドロン			8 mg/日
	内服	朝食後	

---

**【注射】**

day1【ケモセーフ使用】

---

1) 生食	20ml		1 A	
				ポート確認
2) アロカリス	235mg		1 V	
ガスター	20mg		1 A	
デキサート	6.6mg		1 V	
デキサート	3.3mg		1 A	
パロノセトロン	0.75mg		1 V	
ポララミン	5mg		1 A	
生食	50ml		1 本	
	主管①	点滴	30分	
3) 生食	50ml		1 本	
	主管②	点滴	15 分	
4) 生食	100ml		1 本	
	▶側管①	点滴	<b>ビロイを中断した場合のルートキープ用</b>	
5) ビロイ			400 mg/m <sup>2</sup>	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml		1 本	6時間以内に投与終了すること
生食	<b>250ml</b>		1 本	6時間を超えた場合は残液破棄
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照	
6) 生食	50ml		1 本	
	主管④	点滴	15 分	
7) オキサリプラチン(エルプラット)[*2]			85 mg/m <sup>2</sup>	<b>【ケモセーフ使用】</b>
ブドウ糖液5%	250ml		1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間	
8) レボホリナート			200 mg/m <sup>2</sup>	
ブドウ糖液5%	250ml		1 袋	

次ページあり

---

9) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m <sup>2</sup>	<b>【ケモセーフ使用】</b>
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開

---

10) 生食	50ml	1 本	
	主管⑦		フラッシュ

---

11) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m <sup>2</sup>	
生食	100ml	総液量140ml になるように調製	
	主管⑧	点滴	46時間
			(インフューザー)

---

〈所要時間 ー〉

day3

---

1) 生食		10 ml	
			ルートロック

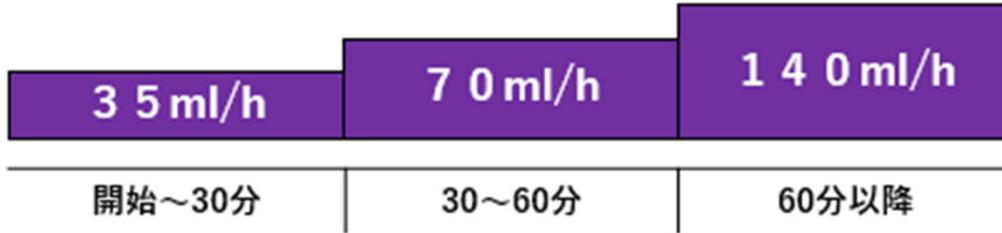
---

〈所要時間 ー〉

次ページあり

## 2回目以降 悪心・嘔吐に対する投与速度のマネジメント

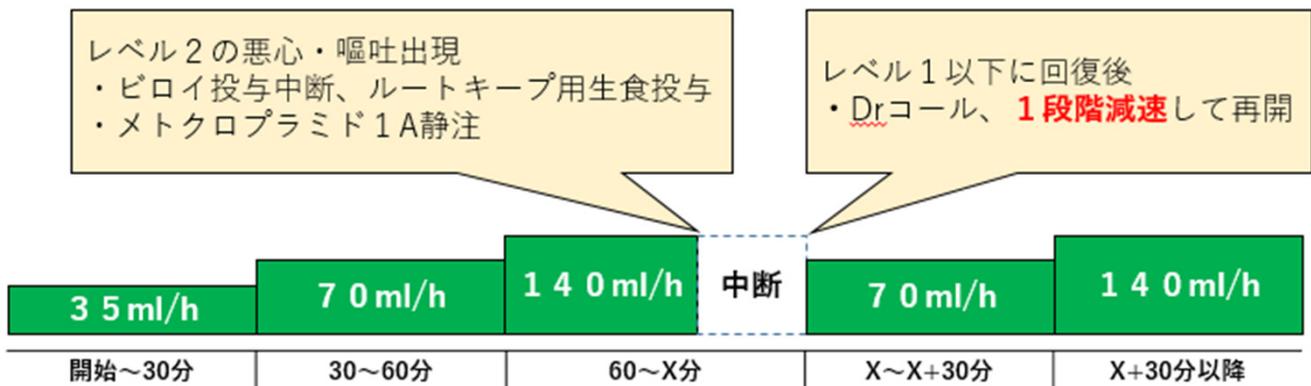
悪心・嘔吐 レベル1以下



\* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(SPOTLIGHT試験) Lancet.2023;401(10389):1655-1668 (PMID:37068504)】

【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

【ピロイ】

\*希釈後、室温で6時間以内に投与を完了すること。また2～8℃で24時間以内に使用すること。  
6時間を超えた場合は、残液を破棄すること。